

内・外装に木材使用したホテルが7日開業

日本ホテル

新木場の新たなランドマークに

日本ホテル（東京都、里見雅行社長）は7日、新木場駅前に「JR東日本ホテルメッツ東京ベイ新木場」を開業する。同ホテルは木材の街としての歴史がある新木場のイメージから、出入り口のゲートやピロティの軒天、外構部、客室など内・外装に木材を使用した。江東区では初めて総合設計制度を活用。敷地内に広場状空地と歩道状空地を設け、歩行者ネットワークを形成したほか、サクラなどを植栽して駅前の緑地との緑の連続性を作り出した。

建設地は新木場駅前 89室。延べ床面積は約6481平方メートル、建築面積は約723平方メートル。液状化対策として木材活用地盤対策研究会が取り組んでいるL

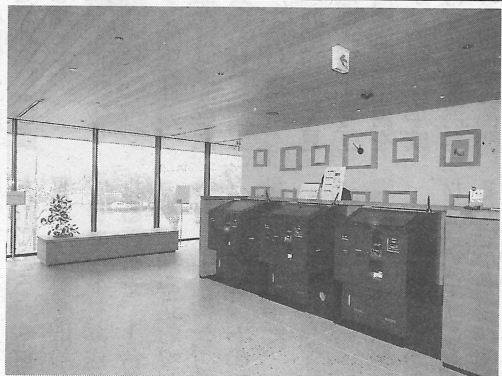
両者による共同事業となっている。建物は基本設計・実施監修を日工は三井住友建設。建物は鉄筋コンクリート造の地下1階、地上10階建てで、総客室は1

材のエステックウッド（杉・桧）、ウッドデッキ・木レンガ舗装、バンチは網中木材のピリアンを使用した。

ロビー、レストラ

客室の出窓は構造計

受付のカウンターとベンチの天板にはムクの千ノク材、天上には杉源平の羽目板を使用



る出窓は幅1050

新木場駅はJR京葉線、東京メトロ有楽町線、東京臨海高速鉄道りんかい線が乗り入れ、東京都内有数の乗降客数を誇る。日本ホテルがホテルに木材をふんだんに使用したのは今回が初めての試み。東京ベイエリアのビジネス・観光の拠点として利用されることが期待される。

ら、客室を広くとるこ

地域アイコンとなる、出窓を生かした建物

Sサイズの出窓デスクは耐震壁と組み合

震壁を外周部に設けることで内部に壁のない